東京都

東１　スマートメータデータの利活用でよりよい社会の実現に貢献　　求める技術：⑪

１　課題を抱える業務の内容

東京都水道局では、令和６年度までに約13万個のスマートメータを先行導入し、お客さまサービスの向上や水道事業運営への活用等に資する取組であることを確認しました。

この成果を踏まえ、令和７年度から令和10年度にかけて約100万個のスマートメータの導入を進めており、2030年代の全戸導入に向けて、スマートメータから取得したデータを活用した、新たなサービスの開発・提供を検討しております。

２　課題の詳細

スマートメータの導入をさらに拡大させていくためには、単なる自動検針による業務効率化だけではなく、様々な付加価値を創出することが必要不可欠です。

使用水量データは、防災や福祉分野などにおける行政課題の解消に向けた活用が期待されており、当局では令和８年３月に「自治体防災業務における水道データ利活用手引」を策定し、防災分野でのユースケースや根拠法令等を整理しました。

その他の分野においても、社会的価値の高いサービスが創出されることについて期待しているため、防災や福祉分野に限らない、広く公共課題の解決に資する提案を募集します。

３　こんな技術を求めています！

スマートメータのデータ（１時間ごとの使用水量データ取得が可能。データの送信は１日１回）を活用し、公共性の高い防災分野や福祉分野に加えて、より広く社会に還元できるサービスが提供できる技術提案を募集します。

なお、サービスの実現に当たっては、法令に則った個人情報の取扱いが必要であるため、その点についても提案の中に含めて頂ければと考えます。

技術提案例：公安分野（防犯・捜査・救急）、福祉分野（フレイル予防・介護）、防災分野、都市計画分野（まちづくり）、本人の同意に基づいて公的な証明に使える仕組み　etc…